

⑩川島愛翔(外野手、3年)

＝群馬・大泉南中出＝



初戦のノースアジア

で、関西の暑さはあまり気にならないです。

青森も暑かったの

光星ナイン
甲子園だより

もつと守備力高める

大明校戦では途中から守りに就き、2度の守備機会がありました。

緊張することなく、落ち着いた打撃を処理できたのが良かったです。

自分は守備で出ることが多いので、もつと守備力を高めてチームに貢献したいです。次はランナーを刺すことが目標です。

自分には守備で出ることが多いので、もつと守備力を高めてチームに貢献したいです。次はランナーを刺すことが目標です。

光星次戦、あすに順延 台風7号接近、室内で調整

第105回全国高校野球選手権大会の大会本部は14日、台風7号の接近に伴い悪天候が予想されるため、15日の3回戦4試合を中止し、16日に順延すると発表した。第3試合で青森県代表の八学光星と文星芸大付(栃木)の対戦が予定されていた。試合日程は1日ずれ込み、準々決勝は19日、準決勝は21日、決勝は23日となる。

八学光星ナインは初戦を突破し、翌13日に兵庫県西宮市内の野球場で練習。14日は同県伊丹市内の野球場で調整する予定だったが、雨が予想されたために京都府亀岡市の室内練習場へ場所を移し、午後1時から

2時間ほど汗を流した。

練習後に取材に応じた仲井宗基監督は、順延後に迎える次戦について「選手たちをどうコントロールしていけばいいのかを思案しているところではある」とした上で、「いづれにしても今までやってきたことを信じて挑ませたい」と強調した。

文星芸大付は初戦の乱打戦を逆転で制した。映像を見たという中澤恒貴主将は「野手陣はバッティングがいい印象。こちらも攻撃を売りとしているので、打ち勝つ野球をしたい」と気を引き締めていた。

(千葉達也)

16強に東北勢3校

○…3回戦に進む16チームの顔ぶれが決まり、関東勢が5校と最大勢力となった。昨夏に続く16強入りは、優勝した仙台育英(宮城)のみ。東北勢はほかに花巻東(岩手)八学光星と、3校が勝ち残った。40

度目出場の北海(北海)は準優勝した2016年以降の進出で、東日本が過半を占めた。九州勢も3校と健闘している。春夏通じて初出場だった6校は3校が初戦を突破したが、3回戦には進めなかった。